

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大手町二丁目鈴木様マンション	階数	地下0階地上10階
建設地	愛知県刈谷市大手町二丁目20番	構造	RC造
用途地域	商業地域(用途地域を記入)	平均居住人員	45人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年1月 予定	評価の実施日	2022年12月19日
敷地面積	880 m <sup>2</sup>	作成者	大山 兼五
建築面積	287 m <sup>2</sup>	確認日	2022年12月20日
延床面積	2,236 m <sup>2</sup>	確認者	熊澤 茂樹



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138	100%
②建築物の取組み	46	70%
③上記+②以外の	92	70%
④上記+	46	70%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Qのスコア = 3.0**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

#### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 3.0**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p><b>4.1</b></p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p><b>2.0</b></p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>3.9 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	3.9 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	3.9 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p><b>2.7</b></p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	-	3.0		
1.2 遮音		0.5	3.0	0.50		3.0	0.50				
1 開口部遮音性能			3.0	1.00		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能			3.0	-		3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-		3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-		3.0	0.20				
1.3 吸音			3.0	-		3.0	-				
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35	3.0	3.0	1.00		3.0		
1 室温		0.5	3.0	0.50		3.0	0.50				
2 外皮性能		3.0	3.0	0.63		3.0	0.63				
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38		3.0	0.38				
2.2 湿度制御		3.0	3.0	-		-	-				
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20		3.0	0.20				
3 光・視環境		0.2	3.0	0.25	3.3	3.3	1.00		3.2		
3.1 昼光利用		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30				
1 昼光率		3.0	3.0	0.60		3.0	0.50				
2 方位別開口			-	-		3.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.20				
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30				
1 昼光制御		5.0	3.0	1.00		4.0	1.00				
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		3.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25				
4 空気質環境		0.2	4.2	0.25	4.2	4.2	1.00		4.2		
4.1 発生源対策		0.6	5.0	0.60	5.0	5.0	0.63				
1 化学汚染物質		3.0	5.0	1.00		5.0	1.00				
4.2 換気		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38				
1 換気量		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	3.0	-		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-		-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	1.0	-		-	-				
2 喫煙の制御		3.0	1.0	-		-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	2.2	0.40	3.0	3.0	1.00		2.8		
1 広さ・収納性		0.4	1.0	0.40	3.0	3.0	0.60				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-		3.0	-				
3 バリアフリー計画	独自	3.0	1.0	1.00		-	1.00				
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40				
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	-	-		3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-		-	-				
3 内装計画		3.0	3.0	1.00		3.0	0.50				
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31	-	-	-		3.0		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-				
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19	-	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-				
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-				

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.0	3.0	0.50	
1 階高のゆとり				-	1.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	2.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			②	1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			等級4相当	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	2.0	0.17	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.99	3.0	3.1	0.33	-	-	-	3.1
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率70%	-	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)大手町二丁目鈴木様マンション

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:3.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)大手町二丁目鈴木様マンション

計画上の配慮事項	
総合	地域に調和する敷地利用計画とすると共に、街並みにアクセントを与える建物とする。
Q1 室内環境	住戸に自然の光と風を採りこみ開放性を持たせると共に、断熱性と遮音性の向上を図る。
Q2 サービス性能	「ハートビル法利用円滑化基準」対応に努め、ゆとりある空間構成に努める。
Q3 室外環境(敷地内)	共用空間に圧迫感を与えない建物配置とし、敷地内の緑化に努める。
LR1 エネルギー	建物の採光・通風・断熱性の向上を図ると共に、省エネ対応に努める。
LR2 資源・マテリアル	設備機器は節水型を採用する。又、リサイクル資材の採用に努める。
LR3 敷地外環境	周辺地域の環境を害さない住空間の構成を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。